様式第１号

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

1 事業名	生涯学習推進事業	コード	103107

2 担当部課	部等	教育部	課等	生涯学習課	作成者	小口喜照

3 事業概要				
目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
	政　策	生涯学習の推進	施　策	社会教育の充実
	予算科目	生涯学習推進事業費	業務委託	なし（直営）
	実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令	なし（選択的事業）		

●事業の内容（DO）

4 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		市民と歩むまちづくり講座開催事業及び学びのおかやサポート事業を行い市民の生涯学習推進を図った。
目的	対象者	全市民
	意　図	市民の生涯学習の推進

5 事業の実施内容

＊28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

〇第５次岡谷市生涯学習推進計画の実行（５年間の計画期間２年度）
〇「成長樹（期）子育て実践ポイント」活用事業
　おかや子育て憲章具現化の取り組みとして、子育てのポイントを年齢期毎にまとめたパンフレット「成長樹（期）子育て実践ポイント」を活用するため、「配付」を行った。
〇市民とあゆむまちづくり講座開催事業（岡谷市職員出前講座）
　市民の生涯学習活動をより一層推進するため、職員が地域へ講師として出向き、市政についての講座を開催した。・メニュー　７部門・８８講座・実施件数　　件・延べ３，７２７人
〇生涯学習人材バンク「マナビィスタッフ」
　地域の教育力を学校教育、社会教育、社会体育の場で活用するため登録の促進を図った。

前年度の課題への対応	マナビィスタッフの活用は引き続き苦戦している。岡谷市の特徴でもあろうが、地域が行政区をベースにしっかり結びついているので、あらためて他地域から知らない人を講師に頼むような学習グループが出てこない。

6 指標の達成状況

＊活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度

区　分	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 活動指標（指標名）				単位
実績値	108	132	93	
＊指標の説明	「市民と歩むまちづくり講座」開催件数			
② 成果指標（指標名）	「市民と歩むまちづくり講座」開催者数			単位　人
目標値	2,458	3,506	4,623	4,623
実績値	3,506	4,623	3,727	
達成度	142.6%	131.9%	80.6%	
＊指標の説明				
＊目標値の設定方法の説明				

7 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 直接事業費	737,895	664,875	881,879	1,002,000
経常経費	737,895	664,875	881,879	1,002,000
臨時的経費	0	0	0	0
＊臨時的経費の説明				

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
② 人件費	4,000,000	4,000,000	4,000,000	4,000,000
正規職員の人数（人）	0.50	0.50	0.50	0.50
③ 合計コスト（①＋②）	4,737,895	4,664,875	4,881,879	5,002,000
前年度比		98.5%	104.7%	102.5%
財源内訳　一般財源	4,737,895	4,664,875	4,881,879	5,002,000
財源内訳　特定財源				
＊特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	43,869	35,340	52,493	
前年度比		80.6%	148.5%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ）補助金負担金の状況

［単位：件、円、%］

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

＊行が足りない場合は追加してください

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

＊妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。　**妥当性　高い**

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

＊有効性＝成果指標（項目7／住民の満足度）は向上しているか。　**有効性　標準**

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。　成果指標の実績値　前年度比　80.6%		0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。　成果指標の目標値　達成度　80.6%		0

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること） おかやマナビィスタッフの活用（継続課題）
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） 人材バンク的な発想は他の分野でも見受けられる（精密加工マイスター制度など）が、実際に「なり手」と「受け手」をマッチングさせるのは地域における人脈が大半である。人材の発掘には何らかのデータ管理は必要だが、紹介してほしいという要望が無いことからも効果的な運用は難しいのでは、と感じる。
改善開始時期	平成２９年４月～

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	A